



テキサスでは隣の農家まで1キロ

テキサスで

三十年位昔、テキサスに出張の折、サンアントニオからメキシコ湾岸まで二百キロ余り車で走った。見渡す限りの畑。農家と農家は一キロ位離れている。隣の家が強盗に襲われても何も出来ない。それだけ広大なのだ。

安全な農産物は？

広大な農地で手間のかかる「有機農法」はやれない。草取りも人手では不可能。だからアメリカでは大量に除草剤を撒く。その除草剤で枯れない為に、「遺伝子組み換え」農作物があるのだ。バッタが出たら？大量に農薬を撒くしかない。

TPPで

TPPが結ばれる

と、日本でもこのテキサスの農家と対抗しなければならぬ。当然同じ位の農地が必要。そうすると、今、一つの村に二、三千人住んでいても、残れるのは十数戸の農家だけ。これではコンビニもやっいていけない。学校もやれない。事実、アメリカやオーストラリアの田舎では通信教育だ。

農村むけの産業は？

現在、農村では一人一台の車が必要な状態。TPPが結ばれると、その農村に人がいなくなるのだから車も売れない。人は土地を手放し都会に出て流民となるだけ。

今の、日本経済は全面的に崩壊するのではないか？

皆さんはどう思われますか？

ともものうら 鞆の浦の路地

広島県 福山市

万葉の時代、大阪から西に向かう舟は、潮が満ちる時、四国と紀伊半島の間から流入する潮の流れに乗り瀬戸内海中央の鞆の浦に向かう。その先に進むには、潮が引き始めるのを待つ。鞆の浦は潮待ちの港として

栄えた。しかし、平地が少ない。脇道に入り込むと、家々は軒を接し、家に居ながら向こう三軒両隣の様子が手に取るように分かる。いたずらをして激しく、叱られている子がいると、

近所のおばあさんが取りなしに現れる。夕飯時「お醤油が無い」と、お隣に借りに行く。お年寄りの家に押し売りが来ても、たちまち、おばさん達に囲まれて、追い払われる。オレオレ詐欺もやりにくそう。そんな息づかいが感じられる街だ。

